

「感動」について考える

初夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

今月は「感動」について考えたいと思います。

前職の頃、初めて営業セクションに身を置き、一番うれしかったのは難しい契約を決めて会社に帰ると全員の拍手の出迎えがあった事です。



代表取締役社長 吉田治伸

以来、残業がつかない営業で頑張ったのは、皆の拍手であり、握手と共に「ありがとう。よくやってくれた。」の上司の一言でした。僕はこの一瞬のために頑張っているのかなあと考えたものです。

当社に入社し、新規開拓の営業で初めて図面をもらって興奮して会社に帰ると会社は真っ暗でシャッターまで閉まっていました。当時、本当に当社は低迷していました。

ほどなく支店を任せられ、心がけたのは、誰よりも多く現場に行き、誰よりも早くお礼を言い、誰よりも早く謝る事でした。能力も経験もない管理職ができる事は、ただ行動するのみでした。結果、誰よりも遅く会社にいる人間になってしまいました。しかし、みるみる現場が変わっていき、ダメ現場と言われた現場が良くなり、「利用者の声」等で褒められた時、現場の皆に「ありがとう」と言いながら握手をして泣いてしまった事は一度や二度ではありません。

当社は今「感動」をキーワードにしています。前述の拍手、握手、感謝はそれぞれ小さな思い出ですが、「心に響いたものの大きさ」は一生忘れないものです。運動部なんかで「しごき」や「いじめ」はまたやられた者が後輩に行うようです。当社が今期待しているのは、「感動」や「喜び」の継続であり、循環です。

毎日ひとつ誰かを「感動」させてあげませんか？